

ソーシャルワーク演習

[演習] 第3学年 通年 選択 2単位

《履修上の留意事項》「ソーシャルワーク実習・実習指導」を履修する学生は、必ず履修すること。
(過年度に単位修得済みでも、実習を履修する当該年度に本科目を聴講することが望ましい)
演習という性格上、遅刻は欠席扱いとする。

《担当者名》 巻 康弘 maki@hoku-iryo-u.ac.jp 大友 芳恵 奥田 かおり 中田 雅美 近藤 尚也 松本 望
片山 寛信

【概要】

ソーシャルワーク実践を形成する要素としてのソーシャルワークの価値、人間と環境、社会の把握と理解、ソーシャルワーク実践アプローチ、実践技法に関する知識とスキルを演習を通して学ぶ科目である。

展開方法としては、ソーシャルワーク実習・実習指導と連動した内容について、少人数クラスで取り組み、人権感覚を踏まえた実践を行う力の獲得を目指す。

【学修目標】

1. 相談援助場面において面接技法を活用した面接を展開することができる。
2. 相談援助場面において得られる情報からアセスメントを行うことができる。
3. 必要な社会資源を調整する方法の概説ができる。
4. 相談援助に必要な社会資源を活用・開発する方法の概説ができる。
5. 他職種との連携やネットワーキングの方法について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション(クラス別)	・ソーシャルワーク演習 の展開方法が説明できる。 ・事例情報をもとに、ソーシャルワークが向ける関心を説明できる。	巻、大友、中田、松本、近藤、片山
2	インテーク・面接技法の統合	・面接の進め方のポイントを説明できる。 ・面接技法を活用し模擬面接を展開することができる。 ・模擬面接で活用された面接技術について説明できる。	巻、大友、中田、松本、近藤、片山
3	インテーク・面接技法の統合	・面接の進め方のポイントを説明できる。 ・面接技法を活用し模擬面接を展開することができる。 ・模擬面接で活用された面接技術について説明できる。	巻、大友、中田、松本、近藤、片山
4	アセスメント	・事例を読み取ることができる。 ・事例をもとに、ソーシャルワークの立場から関心を寄せるポイントを例示することができる。	巻、大友、中田、松本、近藤、片山
5	アセスメント	・事例の主観的ニーズを説明できる。 ・事例をもとに、ソーシャルワークの立場から利用者の置かれている状況に関する情報の整理・統合ができる。	巻、大友、中田、松本、近藤、片山
6	アセスメント	・事例をもとに、ソーシャルワークの立場から利用者の置かれている状況に関する情報の整理・統合ができる。 ・人間と環境の間で起きている問題について説明ができる。 ・利用者のアセスメントにより客観的ニーズ判断ができる。 ・当面の援助目標と必要情報へのアクセス方法を設定できる。	巻、大友、中田、松本、近藤、片山
7	アセスメントとチームアプローチ	・他職種へのアセスメント報告のポイントを列挙できる。 ・模擬カンファレンスで他職種に報告できる。 ・客観的ニーズ判断と判断根拠を説明することができる。	巻、大友、中田、松本、近藤、片山

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		る。	
8	アセスメントとチームアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ・他職種へのアセスメント報告のポイントを列挙できる。 ・模擬カンファレンスで他職種に報告できる。 ・客観的ニーズ判断と判断根拠を説明することができる。 	巻、大友、中田、松本、近藤、片山
9	アセスメントとチームアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ・他職種にアセスメント報告を行う上でのポイントを列挙することができる。 ・模擬カンファレンスで他職種に報告できる。 ・判断根拠を説明することができる。 	巻、大友、中田、松本、近藤、片山
10	面接を通じた自己理解と自己活用	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬面接を通じて、他者の気持ちを理解することができる。 ・模擬面接を通じた、自己の傾向を確認することができる。 ・プロセスレコードの目的と記載方法を説明できる。 	巻、大友、中田、松本、近藤、片山
11	地域福祉の基盤と開発	<ul style="list-style-type: none"> ・地域アセスメントのポイントとツールを説明できる。 ・地域の社会資源を調べる方法を説明できる。 	巻、大友、中田、松本、近藤、片山
12	地域福祉の基盤と開発	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題として取り上げる視点を持つことができる。 ・地域の組織化について説明できる。 ・アウトリーチについて概説できる。 ・ネットワーキングについて概説できる。 	巻、大友、中田、松本、近藤、片山
13	社会問題を基盤とした相談援助演習（社会的排除）	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助事例を通して、事例にみられる複合的要因をアセスメントすることができる。 ・複合的困難課題への支援方法について概説できる。 	巻、大友、中田、松本、近藤、片山
14	社会問題を基盤とした相談援助演習（社会的排除）	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助事例を通して、事例にみられる複合的要因をアセスメントすることができる。 ・複合的困難課題への支援方法について概説できる。 	巻、大友、中田、松本、近藤、片山
15	相談援助における面接とアセスメント	<ul style="list-style-type: none"> ・面接を進めることができる。 ・アセスメントができる。 ・実習日誌が記載できる。 (OSCE不合格者に対する演習担当教員からの再指導)	巻、大友、中田、松本、近藤、片山
16	自己理解と自己活用(プロセスレコード)	<ul style="list-style-type: none"> ・OSCEの際のプロセスレコードをもとに、利用者との関係における自己の傾向と活用方法を説明できる。 ・プロセスレコード活用の目的と記載方法が説明できる。 	奥田、巻、大友、中田、松本、近藤、片山
17	チームアプローチ演習	<ul style="list-style-type: none"> ・チームで取り組む必要がある実践課題について説明することができる。 ・模擬事例をもとにチームアプローチ展開を説明することができる。 	巻、大友、中田、松本、近藤、片山
18	チームアプローチ演習	<ul style="list-style-type: none"> ・チームで取り組む必要がある実践課題について説明することができる。 ・模擬事例をもとにチームアプローチ展開を説明することができる。 	巻、大友、中田、松本、近藤、片山
19	対象別にみる相談援助演習	<ul style="list-style-type: none"> ・事例の持つニーズを説明できる。 ・ニーズに即した支援の検討ポイントを説明できる。 	巻、大友、中田、松本、近藤、片山
20	対象別にみる相談援助演習	<ul style="list-style-type: none"> ・事例の持つニーズを説明できる。 ・ニーズに即した支援の検討ポイントを説明できる。 	巻、大友、中田、松本、近藤、片山
21	対象別にみる相談援助演習	<ul style="list-style-type: none"> ・事例の持つニーズを説明できる。 ・ニーズに即した支援の検討ポイントを説明できる。 	巻、大友、中田、松本、近藤、片山
22	実践を記録する	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実践現場における記録技法を実践することができる。 	巻、大友、中田、松本、近藤、片山
23	実践を記録する	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実践現場における記録技法を実践することができる。 	巻、大友、中田、松本、近藤、片山

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
24	スーパービジョン (実習体験の一般化)	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパービジョン課題を提示することができる。 ・実習で体験したディレンマの構造分析と対処方法について列挙できる。 	巻、大友、中田、松本、近藤、片山
25	自己理解と自己活用(プロセスレコード)	<ul style="list-style-type: none"> ・実習体験プロセスレコードをもとに、利用者との関係における自己の傾向と活用方法を説明できる。 ・プロセスレコード場面を通じた考察を述べるができる。 	奥田、巻、大友、中田、松本、近藤、片山
26	聴くことの力	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワークにおけるマイクロ実践の実際を説明できる。 ・利用者の抱える社会的背景を考慮し傾聴することができる。 ・ソーシャルワーカーが「聴く」ことの意義と必要となる実践力について説明できる。 	下倉賢士(特別講師) 巻、大友、奥田、中田、松本、近藤、片山
27	面接の実践とスーパービジョン	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の抱える社会的背景を考慮し、聴くことができる。 ・実践場面を想定して、面接を行うことができる。 ・面接体験を基にしたピアスーパービジョンができる。 ・面接体験を踏まえた教員とのスーパービジョンができる。 	巻、大友、中田、松本、近藤、片山
28	面接の実践とスーパービジョン	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の抱える社会的背景を考慮し、聴くことができる。 ・実践場面を想定して、面接を行うことができる。 ・面接体験を基にしたピアスーパービジョンができる。 ・面接体験を踏まえた教員とのスーパービジョンができる。 	巻、大友、中田、松本、近藤、片山
29	ソーシャルアクション	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロからマクロレベルのソーシャルワーク実践を説明することができる。 ・マイクロレベルの課題を踏まえたメゾ・マクロレベルへのアプローチを例示することができる。 	巻、大友、中田、松本、近藤、片山
30	ソーシャルアクション	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロからマクロレベルのソーシャルワーク実践を説明することができる。 ・マイクロレベルの課題を踏まえたメゾ・マクロレベルへのアプローチを例示することができる。 	巻、大友、中田、松本、近藤、片山
31	人権感覚と実践能力 (演習まとめ)	<ul style="list-style-type: none"> ・人権感覚を有するソーシャルワーカーの役割と実践能力について説明できる。 ・3年間のソーシャルワーク演習を通じて習得した成果が説明できる。 ・ソーシャルワーク演習3年間のまとめ。 	巻、大友、中田、松本、近藤、片山

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート60% 授業への主体的参加度40%(面接とスーパービジョン 10%を含む)。

【教科書】

八木亜紀子『相談援助職の「伝わる記録」』中央法規。

フェリックス・P. バイステック,尾崎 新・原田 和幸・福田 俊子(訳)『ケースワークの原則(新訳改訂版)』誠信書房。

【備考】

演習という科目の性格上、個人の遅刻が全体の学習の妨げとなるため、遅刻は欠席扱いとする。

この科目は、社会福祉士国家試験受験資格取得のための「相談援助演習」、精神保健福祉士国家試験受験資格取得のための「精神保健福祉援助演習(基礎)」に該当する。

教職課程(福祉)では、教科に関する科目の「社会福祉総合実習(社会福祉援助実習及び社会福祉施設等における介護実習を含

む。）」に該当する。

【学修の準備】

演習で取り上げる支援困難事例にかかわる社会の背景や要因に関して、グループ発表できるよう調べ準備しておくこと。
専門用語の意味を理解しておくこと。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2、3

【実務経験】

巻 康弘(社会福祉士)、大友 芳恵(社会福祉士)、奥田 かわり(ソーシャルワーカー)、中田 雅美(社会福祉士)、近藤 尚也(社会福祉士)、松本 望(社会福祉士)、片山 寛信(社会福祉士)。

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関、社会福祉施設・機関でのソーシャルワーカー(社会福祉士)としての実践経験を通じて得た、価値・知識・技術を活用し、実践的教育を行う。